

## 9月7日（土）ホームカミングデー ボランティア・震災復興分野分科会 報告

ボランティアは各自、自発的・公共的に取り組んでいるものの専門的・法的・経済的等の面での限界は必ずありますが、①信頼を得る、②情報を共有する、③協力し合うなど「できることをできる範囲で行っていくこと」が大切であると鶴橋先生にお話をいただきました。

実際に絵の描写と解説を行い、情報共有の大切さについて考えました。例として、リーダーが山の絵とテーマを指定し、参加者全員が描いてみましたが、当然のことながら山と言われただけでは描かれる絵はバラバラでした。よって同じ方向に全体が動くには、情報をもっと細かく明確に指示する必要があり、指示を受ける側の確認も重要であると再認識しました。

フリートークでは東日本大震災で関わったこと・感じていること・今後何が必要か等について話し合いを行いました。参加者の方の多くから誤情報流出に関するお話があり、様々なメディアが情報を一本化していくことが解決に繋がるかは分からないが、正確な情報伝達の方法、またそれらの情報を自分で仕分けていく必要があるという意見が出ました。また東日本大震災を経て先生より、津波のメカニズムや保険制度等の知識について、もう一度各人が必要性を見直すべきであるとお話がありました。

活動してよかった、活動してもらってよかったと互いに満足感を得られる楽しいボランティアを今後も行っていきたいですね。最後に「辛」い時にもう少し努力して一本足すと「幸」になる、協力して頑張っていこう、という温かいお言葉で締めくくられました。